



ワシントン条約第18回締約国会議 (CoP18) が、本年5月23日～6月3日、スリランカの首都コロンボで開催されます。最も注目すべきは、アフリカ諸国等が提案した「国内象牙市場閉鎖の実施に関する議題」です。この議案には、①2016年のCoP17で採択された国内象牙市場閉鎖決議を強化する改正案と、②未だ市場を閉鎖しようとしがない国に、閉鎖を勧告する決定案が含まれています。①の市場閉鎖決議強化案のポイントは、現行決議が、「密猟または違法取引の一因となっている」国内象牙市場を閉鎖するという表現になっているところ、括弧内の文言の削除を求めたことにあります。従来、括弧内の文言があろうとなかろうと、現実にはすべての市場が閉鎖を求められることになるというのが一般的な理解だったと思われるが、今回、より明確に全市場の閉鎖を求めることにしたものです。②の決定案では、なんと、日本(とEU)を名指して、迅速に国内象牙市場を閉鎖するよう求めています。

今回、こうした議題が提案されるに至った背景として、CoP17での市場閉鎖決議の後、(既に市場閉鎖していた米国やフランスに続き)中国、香港、イギリスなど重要な象牙市場が閉鎖を宣言または実行するという流れが定着する一方、現に密輸出や国内での違法販売が後を絶たないにもかかわらず、「自国の市場は密猟にも違法取引にも一切関係していない」と開き直った宣言をし

て象牙販売を続ける日本のような国が現れた、という現実があります。CoP18では、国内象牙市場の世界的閉鎖の前進、特に日本に象牙販売を断念させられるかどうかが焦点となります。

アジアゾウの保護プロジェクトが10年という節目を迎えました。2008年以来支援してきたアッサム州のカルビ・アングロン自治県では、ゾウが移動するための森林コリドー周辺の水田地帯で頻発していた人とゾウのトラブルを減らすための電気柵設置などの対策が軌道に乗り、村人自身の自主管理も定着しました。また、山間部のコリドー内にあった村もその外側に無事移転することができました。JTEFは10年前のカルビ・アングロンのように未だ支援の手が差し伸べられない、新しいゾウの生息地に目を向けていきます。



目次	巻頭言 … 1
	ゾウの保全をめぐる動き2017 … 2
	2017年度 事業の概要と収支報告 … 3
	2017年度 事業報告(生息地支援) … 4・5
	2017年度 事業報告(普及啓発イベント) … 6
	2018年 事業計画と予算 … 7
	事務局日誌 / イベント・カレンダー … 8

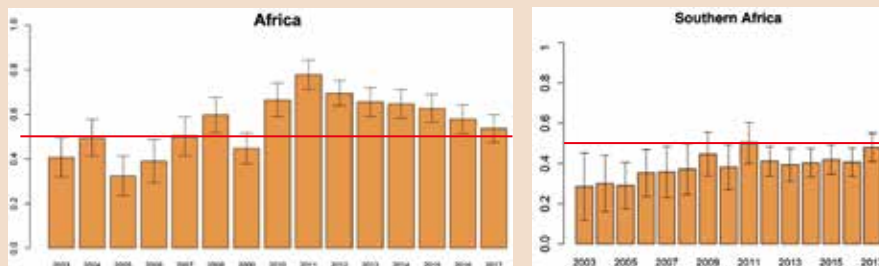
ゾウの密猟の現状

ワシントン条約では、アフリカゾウとアジアゾウの密猟傾向をモニタリングしています（MIKEプログラム）。その最新の報告書が5月のCoP18に向けて提出されました。

密猟傾向の判断基準として、MIKEでは発見された死体の死因（自然死と密猟死）のうち密猟死が占める割合を採用し、その割合が50%を超えれば危険な状態だとしています。

● アフリカゾウ

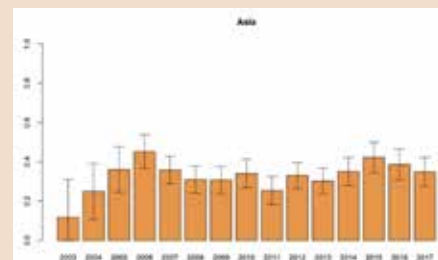
2017年の密猟死率は依然として50%を超えています。このことから、年間2万頭レベルの密猟が続いていることが想像されます。率は2016年より少し減っているのですが、その理由は、ケニアで起きた大干ばつのために、ツァボヤサンプル・ライキビアで大量の自然死が生じ、見かけ上密猟死の割合が下がったことにあります。注目は、アフリカでは最も密猟管理が行き届いていると言われる南部アフリカでも密猟死率が上昇し、50%目前となったことです。



アフリカ全体の密猟死率（左）と2017年に干ばつによる大量の自然死が生じたため見かけ上著しく低下した東アフリカの密猟死率（右）
赤線は、密猟死率50%ラインを示す。

● アジアゾウ

アジアゾウの密猟死率は、アフリカゾウほど高くなく、2017年は40%を切っています。しかし、ゾウの死体の調査データはほとんどインドからのもので、特に密猟が激しいと思われる東南アジア諸国からのデータ提供はほとんどありません（マレーシアとタイからわずかにあるのみ）。アジアでのモニタリングは、未だ密猟傾向を正しく推定する域には達していないといえます。

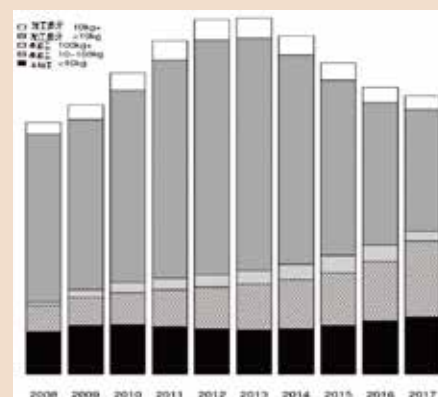


アフリカ全体の密猟死率

● 象牙の違法取引の現状

ワシントン条約のゾウ違法取引情報システム（ETIS）に対し、2017年は、全世界で計1,007件の象牙の押収の報告がありました。ただし、同年は報告率が非常に悪く、報道記事に掲載された象牙押収事件が公式の報告から漏れているなどの問題が散見されたとのこと。そのため、条約事務局は、2017年の件数は明らかに過小であり、そのデータが違法取引の傾向を正確に示していると理解してはならないと警告しています。

ETISの分析の中で非常に興味深いのは、日本についての言及です。日本が象牙の違法取引のサプライチェーンに含まれていたケースの内、日本自身で象牙を押収できた割合の低さが指摘されました。要するに、日本は他国と比べて、水際（税関）で象牙を見逃してしまうことが多いということです。



アフリカ全体の密猟死率

ワシントン条約第18回締約国会議に提出された附属書改正提案

ワシントン条約の規制対象種は附属書と呼ばれるリストに掲載されます。附属書I（原則的に国際的な商業取引禁止）とII（国際的な商業取引に輸出許可必要）の掲載種の変更=附属書改正については、締約国会議における3分の2以上の賛成が必要とされています。

今回の附属書改正提案は計57本で、ペット需要の高い爬虫類の他、アオザメ、サカタザメなどの海生種、アフリカンローズウッドなどの木材種が多いのが特徴です。一方、日本で近年違法取引が続出しているコツメカワウソ（附属書IIからIへ移行。ビロードカワウソについても同様）に関する提案も含まれています。他に目を引くのは、キリン（これまでは条約の対象外だったものを、附属書IIへ掲載）、既に絶滅しているケナガマンモス（これまでは条約の対象外だったものを、附属書IIへ掲載）に関する提案です。

しかし、最も烈な論争が予想されるのは、やはりアフリカゾウに関する3本の提案です。

- ・ボツワナ、ナミビア、南アフリカおよびジンバブエのアフリカゾウ（現：附属書IIIに掲載）の象牙の国際取引再開提案：提案国はジンバブエら
- ・ザンビアのアフリカゾウ（現：附属書I掲載）の象牙の国際取引再開提案：提案国はザンビア
- ・附属書IIに掲載されたボツワナ、ナミビア、南アフリカ、ジンバブエのアフリカゾウ個体群を附属書IIに移行することによる象牙の国際取引禁止の継続提案：提案国はケニアら



[事業の概要]

▶ 生息地支援

[北東インド・アジアゾウ保全プロジェクト]

人件費を除く支援額その他経費(予算額):
2,121,337円(2,200,000円)
現地パートナー:インド野生生物トラスト(WTI)

【目的】

カルピ・アングロン自治県内のゾウの生息地確保・密猟防止

【概要】

- ・「**水田地帯における人とゾウとのトラブル防止プロジェクト**」
ゾウがコリドーから外れて水田へ侵入することを電気柵やゾウの嫌う柑橘類の生け垣等で防止し、村人によるゾウに対する報復行動を防ぐための諸活動を行う。
- ・「**ダイグルン・カラパハル・ゾウ・コリドー確保プロジェクト**」
コリドー内やその周縁部に暮らしコリドー内の森に依存している地域住民の、森林に与える悪影響・ゾウとのトラブルを防止するため、村の自主移転の支援、コミュニティの生活改善、ゾウに対する報復を防止するための諸活動を行なう。
- ・「**移動獣医によるレスキュー・野生復帰プロジェクト**」
密猟者による攻撃、村人とのトラブル、さまざまな事故で負傷等した野生動物を救護し、野生生息地に復帰させる。
- ・「**チントン湖・地域社会保全地域プロジェクト**」
ゾウの水飲み場・休息場所となっている湖周辺を、周辺の3つの村と共に「地域社会保全地域」として保全するための諸活動を行う。

▶ 政策提言

[象牙市場閉鎖プロジェクト]

人件費を除く支援額その他経費(予算額):
3,152,083円(4,965,000円)
直轄事業

【目的】

JTEFは、米国のNGO Environmental Investigation Agency (EIA)の調査に専門技術的助言を行い、EIAをはじめとする海外のNGOとともに、世界中の国内象牙市場の閉鎖を関係機関に提言、それがゾウの保全のために必要であることを日本の人々に訴える。

【概要】

- ・次の事項について、関係機関に政策提言を行なう。
象牙の輸入禁止継続・国内取引禁止に向けた規制の強化

*プロジェクトの一部は、公益財団法人緑の地球防衛基金から助成を得て実施しています。

▶ 保全教育・普及・・・6、8頁参照

▶ チャリティー・イベントの開催・・・6、8頁参照

▶ 会報発行・・・年次報告書(2018年2月)、保護基金通信(2018年6月、10月)、メール・マガジン(3回)、ウェブサイト運営

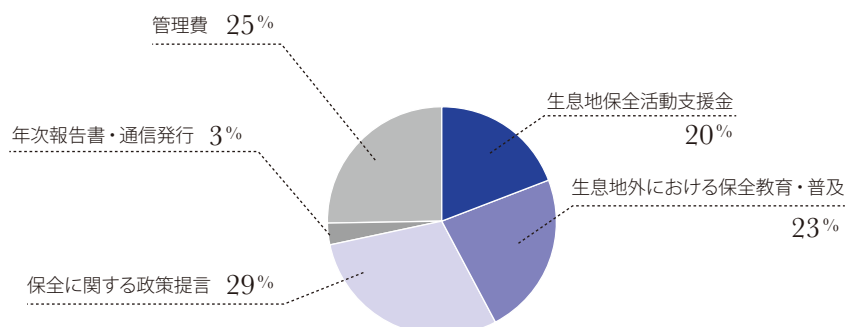
[決算報告]

*ゾウ保護基金 JTEF2017年度決算(2017年11月1日～2018年10月31日)

収益	単位:円
正会員年会費	96,000
寄附金	4,830,770
助成金(緑の地球防衛基金及びEIA)	10,348,988
受取利息・為替差益	12
合計	15,275,770

費用	単位:円
生息地保全活動支援金	2,121,337
生息地外における保全教育・普及	2,557,610
保全に関する政策提言	3,152,083
チャリティー・イベントの開催	0
年次報告書・通信発行	367,486
管理費(人件費・水道光熱費・消耗品費、その他)	2,719,766
合計	10,918,282

※共通の収益は、トラ、ゾウ、イリオモテヤマネコ、それぞれの収支状況を考慮して適正に配分しています。



象牙市場閉鎖プロジェクト

JTEFは、米国のNGO Environmental Investigation Agency (EIA)の調査に専門技術的助言を行い、EIAをはじめとする海外のNGOとともに、世界中の国内象牙市場の閉鎖を関係機関に提言、それがゾウの保全のために必要であることを日本人々に訴えます。

イトーヨーカドーが象牙製品の販売禁止

3月3日の「世界野生生物の日」(2013年の国際連合総会で指定)、トラ・ゾウ保護基金ほか以下の5団体で、象牙印を取り扱う事業者・関係団体に、「象牙印章の取扱いの停止」を要望しました。その中で、イトーヨーカドーから、2020年までに象牙製品の販売を停止するという回答が寄せられました。国際的な視点から、企業の社会的責任を果たす立派な決断です。



認定特定非営利活動法人 トラゾウ保護基金
〒105-0001 東京都港区虎ノ門2丁目5番4号末広ビル3階
Phone: 03(3595)8088
Fax: 03(3595)8090
E-mail: hogokikin@jtef.jp
<http://www.jtef.jp/>



特定非営利活動法人 アフリカゾウの涙
〒1150-0002 東京都渋谷区渋谷三丁目27番11号
<https://www.taeelephants.org/>



Environmental Investigation Agency (EIA)
PO Box 53343, Washington, D.C. 20009, USA
<https://eia-global.org/>



Humane Society International (HSI)
1255 23rd Street, NW, Suite 450, Washington, DC 20037, USA
<http://www.hsi.org/>



WildAid
333 Pine Street, Suite 300, San Francisco, CA 94104, USA
<https://wildaid.org/>

ワシントン条約第69回常設委員会出席

2017年11～12月のワシントン条約常設委員会(ジュネーブ・スイス)で、象牙行動計画の策定を求めるアフリカ諸国やJTEFと、日本政府が対立しました。最終的には、日本に管理の成果を次回委員会に報告させるということで決着しました。

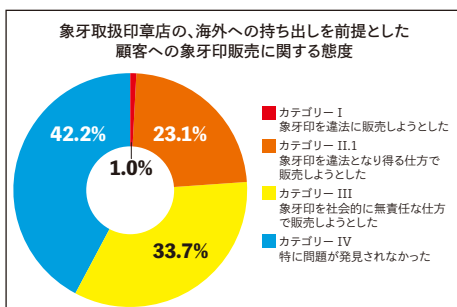
ワシントン条約第70回常設委員会出席

注目は、締約国が、日本を名指して批判するかどうかでした。常設委員国であるニジェールが発言、ある国(例えば中国)が国内取引を禁止した場合、象牙市場が隣国(例えば日本)に移動するという専門家の報告書を紹介、国内象牙市場を閉鎖していないEUと日本はただちに市場を閉鎖すべきであると求めました。JTEFも9つのNGOを代表して意見を述べました。



EIAによる3大都市圏でのハンコ店調査に協力

JTEFが協力する米国のNGOであるEIAが、トラゾウ事務局で記者会見(10月1日)。調査した象牙印を売っている303のハンコ店中、175店が、顧客が海外へ象牙のハンコを持ち出すこと(違法行為)を知りながら販売しようとしていたことを明らかにしました。





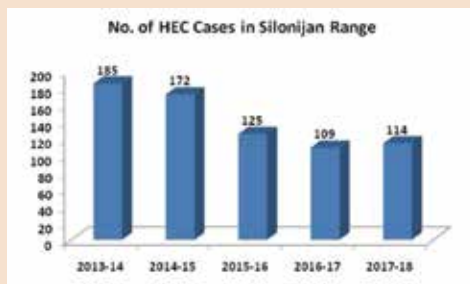
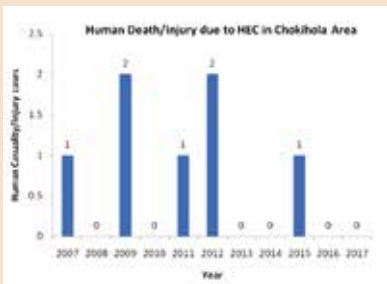
北東インド・アジアゾウ 保全プロジェクト

水田地帯でのゾウと人のトラブル防止対策

ゾウ侵入防止のための電気柵が、9村の水田に接して設置されています(延長距離7km)。

その効果があって、このエリアでのゾウとのトラブルによる死傷事故は減っている一方、ゾウと人のトラブルの件数全体(農作物被害、家屋など農家の財産の被害、人身被害などをすべて合わせた件数)は2017年に少し増えています。

その理由は、電気柵設置の一角にある茶園が、所有地内への設置に反対しはじめ、設置済みの柵を撤去してしまったため、ゾウがそこを通って水田地帯に入るようになったことにあります。そこで、WTIと州森林局で、切れ目なく電気柵を設置するための決策を検討したところでした。



チャーキホラ・エリアのゾウによる死傷事故(左)ゾウと人のトラブル件数(右)

「コメにはコメを」

ゾウとのトラブルで被害を受けた農家に、(被害を補償するという意味ではなく)お見舞いをするという趣旨で、お米を贈っています。2018年の1月にも、ゾウに水稻の被害を受けた世帯、家屋などを壊される被害のあった世帯計114世帯に対し、5,725kgのお米を贈りました。被害の予防を強化する前提でこのようなお見舞いをする事で、地域のゾウとの共存の意思をゆらぎないものになっていくことを期待しています。



移動獣医によるレスキュー・野生復帰プロジェクト

2017年4月～2018年3月のレスキューの実績は、次のとおりでした。

- ・総計24件(哺乳類15件、爬虫類9件)
- ・哺乳類6種(アジアゾウ、ツキノワグマ、ホエジカ、ビントロング、インドオオムササビ Indian giant flying squirrel、スローロリス)、爬虫類6種(シログチアオハブ、ガンジススッポン、インドガラガラヘビ、ナンダ、インドハコスッポン、ビルマニシキヘビ、ベンガルオオトカゲ)
- ・24件のうち、15件は野生下に戻され、6件は死亡(救護に当たったすべてのアジアゾウ4頭(新生児2頭、乳児2頭)を含む。)、3件は施設内で飼育下にありますが(うち2頭は、アルンナチャルプラデッシュ州のクマ・リハビリテーション・センターでリハビリ中です)。



保護されたビントロング

2017年12月5日～27日
パネル展「森を創り支えるトラ、ゾウ、ヤマネコ」
 @パン・オ・スリール(渋谷 オーガニックパン屋さん)



フェアウッドパートナーズのご協力で田中豊美さんの森を創るトラやゾウの絵を展示。ワークショップでは中村亜矢子さんと「運がつく! ゾうUNペーパーでメッセージカード」を作りました。

2018年1月6日～8日
「こんにちは! シャンシャンまつり」
 @上野公園イベント広場



象牙のハンコにNO!という「ぞうとの約束」キャンペーン。前上野動物園長にハンコを押して賛同していただきました!

2018年2月10日
「やまねこマラソン」
 @西表島



「マラソンは飛ばしても車はゆっくりね」のスローガン、やまねこパトロールTシャツでヤマネコチームが今年も頑張りました!

2018年2月23日
「瀬木貴将 Talk&Live SEGI x JTEF」
 @JTEF事務局



サンポーニャ奏者瀬木貴将さんのご協力でJTEF事務局で行われたTALK & LIVE。アフリカの大自然、動物たちに会いに行きたくくなりました。

2018年4月21、22日
アースディ東京2018
 @代々木公園



象牙国内市場閉鎖に向けた署名活動、パネル展示、動物のマグネット作りワークショップ。ボランティア参加者も大勢で賑わいました。

2018年6月2日
JTEFを支えるチャリティーパーティー2018
 @恵比寿ピアステーション



「JTEFの活動を支えるチャリティー実行委員会」によりチャリティーパーティー開催。アンジェラ・ラガさんの楽しいライブで大盛り上がりでした。

2018年6月30日
「命をつなぐ Arai Harumi(新井晴み)xJTEF presents エリカ」
 @JTEF事務局



いつもご協力いただいている女優の新井晴みさんのシナリオ朗読。子を思う母、家族の愛情の深さはゾウの群れにもつながるものがあります。

2018年7月18日
「アメリカのパークレンジャー リサさんのトーク」
 @JTEF事務局



来日中のフロリダ・ビッグサイプレス国立保護区で環境教育を行っているリサさん。色々参考になるお話を伺いました。

2018年8月12日
世界ゾウの日
 @上野動物園



アジアゾウが生息地間を移動できるようグリーンベルトの森を守り、アフリカゾウの密猟を無くするため象牙市場を閉鎖する活動を紹介しました。

2018年10月6日
ゾウとサイを守るグローバルマーチ
 @上野イベント広場



上野公園に200人が集結。1時間かけて園内を一周してゾウやサイの保護を呼びかけました。

2018年10月13、14日
ディワリ・in横浜2018
 @山下公園(横浜)



奥深いインド文化を楽しめる山下公園でのインドフェスティバル。JTEFはインドの森にいるトラやゾウの現状、保護活動を伝えました。

2018年10月27日
ヤマネコ祭り2018
 @井の頭自然文化園



ツシヤマネコを飼育している井の頭動物園。イリオモテヤマネコも毎年参加させていただいています。クイズも楽しんでいただきました。

□ 日本の象牙市場の閉鎖

本年5月23日～6月3日に開催されるワシントン条約第18回締約国会議（スリランカ）における「国内象牙市場閉鎖の実施に関する議題」で、日本に対する市場閉鎖の勧告が採択され、日本が一刻も早く正しい政策変更を行うよう、関係機関に働きかけを行っていきます。

また、会議後は、世界の目が日本に集まる2020年のオリンピック・パラリンピック開催時に、日本から現実に象牙製品が一掃されているよう、世界のNGOと協働して活動していきます。



□ インドにおけるアジアゾウとその生息地の保全

10年間のカルビ・アングロン自治県での活動を終了し、新たなプロジェクトを開始します。今年度は、重要なアジアゾウの生息地でありながら、未だ保護の手が差し伸べられない場所を選定し、そこで活動方針を決定、できれば年度内に活動を開始したいと考えています。



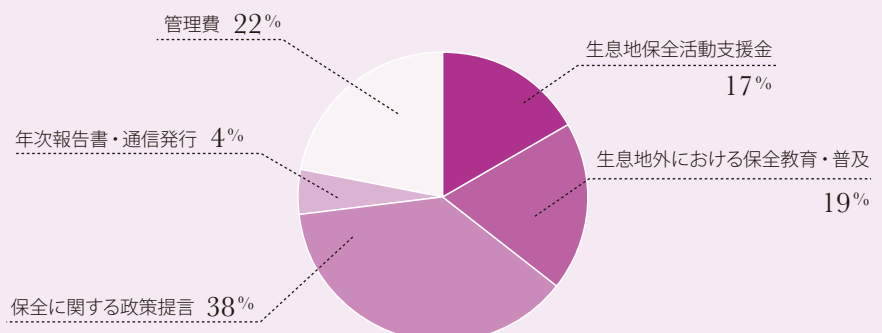
ゾウ保護基金 JTEF2018年度予算 (2018年11月1日～2019年10月31日)

予算：収益

正会員年会費	120,000
寄附金	4,559,800
助成金	9,000,000
合計	13,679,800

予算：費用

生息地保全活動支援金	2,300,000
生息地外における保全教育・普及	2,603,700
保全に関する政策提言	5,160,200
チャリティー・イベントの開催	0
年次報告書・通信発行	633,900
管理費（人件費・水道光熱費・消耗品費、その他）	2,982,000
合計	13,679,800



※共通の収益および費用は、それぞれの予算を考慮して適正に配分しています。

- November 2017**
11.27~12.1 ワシントン条約常設委員会参加(ジュネーブ)
- December**
12.5~27 「リ・オ・ス・リール」にて田中豊美展覧会開催(渋谷区)
12.9 象のUNKO elephant paperとワークショップ開催(渋谷区)
12.17 うえのトラ大使ワークショップ(上野動物園)
12.21 JWCS主催常設委員会報告会で報告(渋谷区)
12.25 野生生物保全教育研究会(事務局)
- January 2018**
1.6~7 「こんにちは!ジャンジャンまつり」にブース出展(上野公園)
1.20 うえのトラ大使学校授業(台東区立上野小学校)
1.20 理事会・総会・交流会(事務局)
1.21 野生生物保全教育研究会(事務局)
1.29~31 象牙問題国際ワークショップ参加(北京)
- February**
2.9 やまねこマラソン大会参加・ブース出展(西表島)
2.12 沖縄県主催「西表島らしい世界自然遺産のあり方」フォーラムで登壇(西表島)
2.17 うえのトラ大使学校授業(台東区立忍丘小学校)
2.23 瀬木貴将チャリティーコンサート開催(事務局)
- March**
3.11 うえのトラ大使卒業式(上野動物園)
3.17 世界自然遺産科学委員会 沖縄ワーキンググループ傍聴(西表島)
3.18 環境省イリオモテヤマネコ保護増殖検討会参加(西表島)

- April**
4.7 白梅さくらまつりにブース展示(世田谷区)
4.15 イリオモテヤマネコ発見50年モニュメント落成式に出席(西表島)
4.15 「イリオモテヤマネコの日」記念シンポジウム開催(西表島)
4.21,22 アースデイ東京2018にブース出展(代々木公園)
4.22 八重山郷友会連合会総会に参加(北区)
- May**
5.11~16 イリオモテヤマネコ保護対策打合せ・現場視察(西表島)
5.26 野生生物保全教育研究会(事務局)
5.27 ソロプチミスト・パザーにブース出展(狛江市)
- June**
6.2 チャリティー・パーティー開催(渋谷区)
6.7 世界自然遺産候補地地域連絡会議
平成30年度第1回西表島部会出席(西表島)
6.10 西表島郷友会総会参加(川崎市)
6.26 大原中学校ヤマネコのいるくらし授業(西表島)
6.30 新井晴みチャリティー朗読会開催(事務局)
- July**
7.2~5 イリオモテヤマネコ保護対策打合せ・現場視察(西表島)
7.22 講演「牙牙物語」&JTEF活動紹介(北海道東川町)
7.25 ヤマネコのいるくらし授業教員研修会(西表島東部)
7.26 ヤマネコのいるくらし授業教員研修会(西表島西部)

- August**
8.1~2 沖縄県エコツーリズム推進体制構築事業WG出席(西表島)
8.12 世界ゾウの日にブース出展(上野動物園)
8.13~17 イリオモテヤマネコ保護対策打合せ・現場視察(西表島)
8.23 野生生物保全教育研究会(事務局)
- September**
9.6 世界自然遺産候補地地域連絡会議 平成30年度第2回西表島部会出席(西表島)
9.9 しかあざ会(八重山の郷友会の一つ)総会参加(北区)
9.14 野生生物保全教育研究会(事務局)
9.29~30 ナマステ・インディア2017ブース出展(代々木公園)
- October**
10.1~5 ワシントン条約常設委員会参加(ソチ)
10.6 ソウとサイを守るグローバルマーチにブース出展(上野公園)
10.11 EIA象牙ハンコ店調査記者発表(事務局)
10.13~14 ディワリ・イン・ヨコハマ2018にブース出展(横浜山下公園)
10.25 常設委員会報告会をJWCSと共催(渋谷区)
10.27 ヤマネコ祭2018にブース出展(井の頭自然文化園)

Media

-JTEFやそのパートナーの活動/コメントが掲載されました-

- 2017年11月21日_象牙取引、大手相次ぎ撤退メルカリ・楽天…国際的な動向受け「NPO法人トラ・ゾウ保護基金の坂元雅行事務局長は『市場閉鎖は政府がリードすべきものだが、大手の事業者が撤退することで市場は確実になくなっていくだろう』と話す。」
- 11月19日_東京新聞:象牙取引、日本を名指し批判 生息4カ国が国際委に議案「議案について、NPO法人『トラ・ゾウ保護基金』事務局長の坂元雅行弁護士は『日本の主張は国際社会の潮流に反している。他国から厳しい目で見られるのは当然だ』と説明する。」
- 12月3日_河北新報:捕鯨、象牙日本批判相次ぐ ワシントン条約委が閉会 「NPO法人『トラ・ゾウ保護基金』事務局長の坂元雅行弁護士は『条約締結国会議が各国に国内市場の閉鎖を求める決議を採択しているのに、日本だけを例外とする独自解釈が国際的に受け入れられるはずがない。今の規制のままでは今後も厳しい批判を受けるだろう』と指摘した。」
- 12月4日_東京新聞:象牙取引日本に抜け穴 ワシントン条約委批判相次ぐ トラ・ゾウ保護基金は、環境省の「登録キャンペーン」について象牙業者の在庫を潤そうというもくろみだと酷評。」
- 2018年1月27日_名古屋CBCラジオ:今週のココ掘れニュース 象牙取引、日本の現状 NPO法人トラ・ゾウ保護基金:「ゾウが毎年2万頭も殺されるのはなぜか、それは買う人がいるから。自分たちがゾウを守るために密猟と戦っているのに、条約の決議を無視してまでも象牙取引を続けている。そんな日本に行動が求められるのは当然だと思います。」Bloomberg
- 2月14日_八重山毎日新聞:自然と共生、地域づくり確認 西表島の世界自然遺産登録 有識者らが対策討議 「エコツアーの拡大でオーバーユースによって自然環境の悪化が懸念される中、やまねこパトロールの高山事務局長は『現在、島内にある2つのエコツアールールは法的拘束力がなく、規制されるエリアも限られていてと限界を示し、条例に基づいた島全域が対象のルール作りの必要性を強調。』
- 3月2日_The Times of India:Tipshwar frontline staff gets lessons in man-animal conflict management 「(トラと人とのトラブルを防止する)このプロジェクトは、インド野生生物トラスト(WILD)が、トラ・保護基金(JTEF)の支援を受けて実施している。」
- 4月18日_八重山毎日新聞:屋久島の二の舞になる西表島の世界自然遺産登録 総量規制の導入が重要 JTEF西表島支部やまねこパトロール主催の第3回記念シンポジウム「屋久島が教える、西表島が今すべきこと」のわいわいホールで開催された。」
- 5月5日_朝日新聞:自然保護「宿題ももらった」 「奄美・沖繩」登録延期 「西表島でイリオモテヤマネコの保護に携わるNPO法人『トラ・ゾウ保護基金』職員の高山雄介さんは、報告が『適切な観光管理』などに言及した点に注目。島では観光客の増加でヤマネコの交通事故死などの影響が出ているため、『観光客の総量規制を求めていると理解できる。政府や地元自治体は直ちに対策を行う必要がある』と語った。」
- 5月26日_静岡新聞:ヤマネコ輪禍対策 世界遺産延期を好機に 「『トラ・ゾウ保護基金』の戸川久美さんは、『登録延期報告で時間をもらったと考え、地元の人々と一緒に効果的な交通事故防止対策をまとめた。登録はそれからも遅くはない』と話している。」
- 5月30日_WEBRONZA-朝日新聞社の言論サイト:観光客の制限を求められた奄美・沖繩 「島でイリオモテヤマネコの保護に携わるNPO法人『トラ・ゾウ保護基金』の高山雄介さんは『ヤマネコが車や人の存在に慣れ、道路上でひかれた別の動物を食べたり、道路近くで餌をとったりすることが増えていると指摘されている』と話す。」
- 6月2日_八重山毎日新聞:自然保全機運の低下を警戒 モニタリングの開始を訴え 「JTEF西表島支部やまねこパトロール高山事務局長は『自然環境の変化を追い、各フィールドの収容力と観光事業者の実態を正確に把握すること。どれだけの人を受け入れられるかを設定することは、住民の生活を守ることにつながる』と話す。」
- 6月8日_東京新聞:あの人に迫る 坂元雅行 「トラ・ゾウ保護基金」事務局長 「象牙の印鑑が本格的に出回ったのは、昭和三十年代の終わりから四十年以降です。最も聖なる素材である象牙の実印を書類に押せば家財が失われるなどと言った。訪問販売とも結び付き、象牙印の全国への普及に一役買いました。つまり『伝統』とは縁のない話です。」
- 6月25日_Bloomberg Environment, Environment & Energy Report:Japan's New Ivory Trade Rules Lack Adequate Teeth, Critics Say 「坂元は、改正された法律を機能させるには、規制の抜け穴を防ぐことが必須だという立場に立つ。」
- 9月20日_本経済新聞:象牙の密輸出国ニッポン 国内取引が「抜け穴」に 「NPO法人『トラ・ゾウ保護基金』は8月、印鑑の材料として使う象牙を扱っている東京都内の複数の店を対象に覆面調査を実施した。」
- 9月24日_NATIONAL GEOGRAPHIC: How Japan Undermines Efforts to Stop the Illegal Ivory Trade 「『過去の歴史を見れば、ゾウを絶滅に追いやることのない程度に取引を管理しようとしても無理なのは明らかです。』坂元雅行、トラ・ゾウ保護基金(JTEF)。」
- 10月15日_朝日新聞:海外送付は違法の象牙印鑑、店の6割「売る」覆面調査 「調査結果を、野生生物保護に取り組む国際NGO「環境調査エージェンシー(EIA)」がまとめた。象牙の需要がなくなり、国際的なゾウ保護の取り組みを阻害していると訴えている。」
- 10月27日_日本経済新聞:象牙の印鑑「扱いません」 海外の視線厳しく 「NPO法人『トラ・ゾウ保護基金』(東京・港)の坂元雅行弁護士によると、1970～80年代に印鑑と運勢を結びつける『印相商法』が流行、『神聖な獣であるゾウの牙を用いると運気が上がる』などとされ、象牙の印鑑が大衆化した。」

イベントカレンダー

2019

「Spring Love 春風 2019」

JTEF ブース出展
KeenFest (東京・代々木公園)
3月30日(土) 12:00 ~ 18:00 頃
31日(日) 10:00 ~ 18:00 頃

4月20日(土)21日(日)
アースデイ東京
2019
JTEF ブース出展
(東京・代々木公園)

4月14日(日) (西表島・大原) 4月15日(月) (西表島・上原)
19:00 ~ (予定) 19:00 ~ (予定)
イリオモテヤマネコの日 記念シンポジウム

7月6日(土) 18:00-20:00

JTEFを支えるチャリティーパーティー
(東京・ビヤステーション恵比寿)

JTEFのウェブサイトリニューアルしました!
情報充実+スマホ対応+オンラインでのご寄附も便利に。
www.jtef.jp または「トラゾウ」で検索

JTEFの活動をご支援ください!

JTEFの活動は、皆さまからのご寄附で支えられています。野生動物と私たちの豊かな自然環境を守るために、ぜひ私たちの活動をご支援ください。

★年間サポーター費・随時寄附のお支払方法★
JTEFのウェブサイトからクレジットカードで簡単にご寄附いただけます。www.jtef.jp または「トラゾウ」で検索

郵便振替でもご寄附いただけます。
ゆうちょ銀行：口座番号)00170-7-355897 加入者名)トラ・ゾウ保護基金

トラ・ゾウ保護基金へのご寄附は、
確定申告で納められた所得税の控除(還付)を申告できます
2018年1月1日以降2018年12月31日の間にいただいた年間サポート寄附と随時の寄附は、合計で2,000円を超える平成30年分の所得税の控除申告ができます。ぜひご利用ください。
確定申告の受付は2019年(平成31年)3月15日(金)まで。お忘れなく!